

養生片仔癀の研究内容:

< 実例報告 >

「第3世代の統合医療: 肝臓疾患治療用漢方製剤」

サウジ消化器病学会第8回科学者会議

2004年11月30日～12月2日 サウジアラビア

F. Marotta, E. Minelli, U. Solimene, 謝心範

Hepato-GI部、イタリア・ミラノ； WHO伝統医学センター、イタリア・ミラノ大学；

漢方養生研究所、日本・東京

過去数年、新しい統合医療方式は、先進諸国で広く注目されるようになり、欧米では恐らく最も量的に多い医療方式になっている。ミラノ大学には、かなり前にバイオテクノロジーと自然医学の大学院課程(期間3年)を有するWHOとの共同研究センターが設立され、教育課程において「非伝統」医学および「伝統」医学の専門家の交流がある。

プロバイオティクス、天然酸化防止剤、天然肝臓保護製品などの合成物は、今ではどの「伝統」医学のシンポジウムにおいても最新のテーマになっている。

慢性肝臓病の漢方薬治療法は、利用が着実に増加し、重要な役割を担うようになっている。しかし、臨床研究が見劣りすることが多い上、堅実な実験的研究は根拠のない非科学的療法の横行によって影が薄くなっている。われわれは、ここで、基礎から臨床に至るまで明確に確立された観点から、漢方薬治療術の現状について報告する。

これは、生体外、生体内および予備的な試験的研究において、HCV(C型肝炎ウイルス)による肝臓病患者の臨床診療で強力な治療効果を発揮する可能性があることが明らかになっている。HCV陽性の慢性肝臓病患者で80IUを超えるトランスアミナーゼを持つ患者はHCC悪性転換のリスクが高いことを長期間にわたる研究が示したことを考えると、これは特に興味深いことである。YHKは、副作用を伴うことなくGPTを効果的に低下させるユニークな合成物であると見られる。